

先哲
和歌 鑒定復覽
下

千 3
3562
2



移 6
2223
2止

門 子 3
3562
2

古今墨蹟驗定便覽卷下

地下奇人之部

本居宣長

伊勢松阪小津氏ノ子ナリ幼

名富之助後本居ト改ム通
称春庵又中衛ト号ス初ノ
京師ニ来リ醫ヲ武川氏ニ
学ヒ儒ヲ堀景山ニ受ク然
シテ故郷ニ帰ル後加茂翁
ヲ慕ヒ其門ニ入り大イニ
志ヲ立テ国史律令記録奇
集物語等普子ク研究シ終
ニ絶倫ノ学士タリ殊ニ古
事記傳ヲ著ハシテ古学ヲ
天下ニ播布ス実ニ翁ニ至
ツテ縣居翁ノ学ヲ補ヒ助
ケテ益盛大ナリ故ニ其門
ニ入テ教ヲ受道ヲ唱フノ
英才士殆ント五百人ニ及
ヘリ九テ翁ノ学風ノ昌ナ
ル世ノ知ル所ナレハ多言
ヲ贅セズ時ニ享和元年九
月廿九日歿ス年七十二松

坂妙樂寺ノ山室ニ華ル後ノ名ヲ秋津彦美豆櫻根大人ト云迄頃又雅美豆櫻根冥神ト賜フ翁著唇數百表刊行ス

宣

長

長



宣長

本居春庭

宣長翁ノ男ナリ松坂ニ住シ

翁ノ家ヲ嗣通称健藏後ノ鈴屋ト号ス詠哥殊ニ精巧父翁ニモ勝レリト世ニ称ス又言語天仁表波ノ道ヲ研究ス中年瞽者トナリテ後益強記比類ナク学イヨク進△門人甚多シ文政十一年十一月七日歿ス年六十六ナリ

春庭

本居大平

伊勢松阪ノ人初ノ名ハ楢掛

茂穂ト云宣長翁ノ義子トナリテ紀公ニ仕フ君竈甚深ク班側用人ニ列ス能家学ヲ守リテ篤厚懇切ノ士

ナリ門人諸国ヨリコソリ
未ツテ既ニ一千余ニ及ヘ
リ其昌ナル知ルヘシ天保
四年九月十一日歿ス年七
十八後ノ名ヲ八十言矣大
人ト云号ヲ藤垣内通林三
四右衛門

大平

本居三巳左

藤垣

大平

丙

大平

大平

粟田土満 遠江濱松ノ人
ナリ江戸ニ五
テ加茂翁ノ門ニ入テ古学
ヲ研究シ翁歿後鈴屋翁ノ
門ニ入又古学ヲ問フ

土満

内山真龍 遠江大屋村ノ
人ナリ通称弥
兵衛初ノ加茂翁ノ門ニ入
テ古学ヲ修シ翁歿後鈴屋
翁ノ門ニ入テ頻リニ研究
シ大イニ進ム

大平

稻掛棟隆 伊勢松阪ノ人
ナリ通称什介
宣長翁ニ從ヒ詠哥ヲ学ヒ
男茂穂後大平ヲ鈴屋翁ニ

後カハシメ終ニ義子トセ
シム鈴屋隨身無二ノ人十
リ後薙髮シテ悦可ト号ス
寛政十二年四月七日歿年
七十一

田中道磨

俗称田中莊兵衛
衛後道全ト号

ス美濃ヲ藝郡ノ人ナリ早
ク鈴屋翁ノ門ニ入テ頻リ
ニ万葉集ヲ研究シテ世ニ
称誉セラル殊ニ古体ノ哥
ヲ善ス時ニ天明四年十月
四日歿ス

乃也

須賀直見

伊勢松坂ノ人
通称正藏鈴屋

門ノ高弟ニシテ歌哥ヲ善
シ古学ヲ修ム

直見

三井高蔭

伊勢松坂ノ人
ナリ通称宗十

郎鈴屋翁ノ門ニ入テ古学
ヲ研究シ翁ノ学ヲ補翼ス
姪高匡又翁ニ從ヒテ後大
平ニ隨ヒ大イニ勅ノ善ス

高蔭

植松有信

尾張ノ殿人ナ
リ通称彦兵衛

大イニ古学ヲ修シ殊ニ詞
ノ学ヲ研究ス然シテ徒ヲ
迎テ教示ス鈴屋門ノ高弟
ナリ文化十年六月歿ス

有信

千家清主

土雲因造俊秀ノ男ナリ名俊信京師ニ出浪花ニ寓ス伊勢ニ往テ鈴屋翁ノ門ニ入壇リニ古学ヲ修ス山陰道ニ古学ヲ與セシハ実ニ女宿祢ノ功ト云ツヘシ

俊信

橋本稻彦

藝州ノ人ナリ通称中臺鈴屋翁ノ門ニシテ巨擘トイフヘシ翁ノ学ヲ補翼ス文化季年歿ス著唇アリ

稻彦

上田百楸

京師ノ人ナリ俗称鎌屋藤助鈴屋門ノ巨擘古学勦強シテ其学甚精細ナリ

服部中庸

京師ノ人ナリ又箕田水月ト号ス齋ヲ以テ業トス鈴門ノ巨擘ニシテ唯一古学ヲ勦ム曾テ三大考ヲ著ハシテ未殆ノ説ヲ出ス平田氏其説ヲ益主張シテ大イニ昌ナリ文政七年二月歿ス年六十九

中庸

服部敏夏

京師ノ人ナリ俗称中川屋五郎右衛門鈴門ニシテ頻リニ詠哥ヲ修シテ尤モヨクセリ文政初年歿ス

市岡猛彦 尾張ノ殿人ナ
リ通称藤太郎
鈴屋門ノ高弟ニシテ時ニ
鳴ル文政ノ初年歿ス櫛圃
又椎垣内ト号ス

多岐彦

横井千秋 尾張ノ殿人ナ
リ通称田守鈴
門ノ巨擘ニシテ翁ノ学ヲ
助ケ古学ヲ研究ス

千秋

長瀬真幸 肥後ノ藩士通
称七郎平鈴門
ノ高弟ニシテ大イニ万葉

集ヲ研究シテ一家ヲナセ
リ篤厚ノ学士タリ文政ノ
初年歿ス

真幸

鈴木朗 尾張ノ殿人ナ
リ儒官ニシテ
深ク鈴屋翁ノ学風ヲ慕ヒ
門ニ入テ修シ一家ヲナス
漢籍ヲ解クニコレヲ我皇
朝ニ参考シ其説甚奇ナリ
時ニ称誉言ス

朗

加藤磯足 尾張起取ノ人
ナリ通称右門
七鈴屋門ニシテ名譽ノ人
ナリ尤哥唇ヲ研究シテ頓
リニ進ム

破足

千村仲雄

通称平左衛門
後伊豫ト云フ
飛騨御代官
夕リ頼リニ鈴
屋翁ヲ慕ヒ古学ヲ研究シ
テ大ニ進ム翁ニ質問スル
丁甚多シ

渡邊重名

豊前中津八幡
宮ノ神主タリ
從五位下野介タリ
鈴屋翁ニ及ヒテ古学ヲ修シ甚
進ム文章ヲ善シテ時ニ称
セリ

重名

白尾國柱

薩摩ノ藩士ナ
リ鈴門ニシテ
古学ヲ修シ尤モ進ノリ

小篠敏

石州濱田ノ藩
士鈴門ノ巨壁
タリ漢学ヲモ善セリ又
脚野トモ云フ

敏

大館高門

尾張名古屋ノ
人通称左市鈴
門ニ入テ奇学ヲ修シテ善
セリ後京師ニ出テ一條家
ノ御内人トトレリ天保十
年十二月三日歿ス年七十
四ナリ

其目獲麻呂

遠江白須加駅
ノ人ナリ通称
嘉右衛門鈴屋門ノ巨壁ナ
リ頼リニ古学ヲ修シテ大
イニ進ム門ニ入テ教ヲ授
ル者甚多シ男諸平記伊ノ
殿人ニシテ学ヲ勤メ頼リ
ニ唱フ

石塚龍麻呂 遠江敷智郡ノ人ナリ通称安
衛門鈴屋門ニシテ大イニ
古学ヲ唱ヘテ甚夕善セリ

殿村安守 伊勢松坂ノ人
ナリ大神氏鈴
門ニシテ詠哥ヲ修ス

安守

村田春門

初ノ名ハ一柳
並樹ト号ス後
春門ト改ム鈴門名譽ノ人
ナリ古学詠哥ヲ唱ヘテ一
家ヲナシ徒ヲ延テ教示ス
江戸ニ出後浪花ニ任ス男
家ヲ嗣テ度ヲ教示ス

春門

春門

大矢重門

美濃大垣ノ人
ナリ通称仁左
衛門鈴門ニシテ詠哥ヲ修
シテ大イニ進ム

城戸千楯

京師ノ人ナリ
俗称蛭子屋市
右衛門書林ナリ鈴屋門ニ
ハテ修学シ翁歿後荒木田
久老神主ニモ親ヒテ問フ
京師ニ鐸舎ヲ開舎シテ同
志ノ士ヲ集メテ都講タリ
送ヒ学フ者頗ル多シ後通
称ヲ範次ト改メ古学教示
ヲ以テ業トス弘化二年九
月廿一日歿ス年六十八紙
眞室ト号ス

高尚

高尚

藤井高尚

備中吉備津宮
初官タリ正

五位下長門守ニ叙任ス鈴
門ノ巨擘ニシテ殊物語等
ヲ研究シ専ラ文章ニ堪能
ナリ然シテ文詞範範ノ唇
ヲ著ハシテ教示ス及ヒ学
ブノ伎頗ル多シ時ニ天保
十二年八月十七日卒ス年
七十七松舎ト号ス謚テ三
寸鏡冥神ト云

高尚

高尚

堤朝風

江戸ノ人ナリ
通称三五郎鈴

屋門ニシテ古学ヲ修ス平
田翁ト交友尤善シ

朝風

村上澳夫

伊勢白子ノ人
ナリ後津国伊

丹ニ任ス通称三介鈴屋門
ニシテ専ラ詠哥ヲ修ス

田中大秀

飛騨高山ノ人
ナリ鈴門ニシ

テ詠哥物語ヲ修シ名譽ノ
人ナリ

大香

伴信友

若狭ノ藩士通
称州五郎立入
ト号ス深ク鈴屋翁ヲ慕ヒ
江戸ヨリ名簿ヲ入テ門ニ
入ントス時ニ翁歿セリ故
ニ其事ヲ大平主ニ告テ猶
故翁ノ門人ニ等シ然シテ
大イニ古学ヲ勉強シ苦学
研究精力絶倫ナリ古唇ヲ
校正シテ世ニ益甚ク著
唇百部ニ述ク精細比類ナ
シ故ニ世ニ頻リニ称誉シ
コレヲ慕ヘルノ彦願ヲシ
時ニ弘化三年十月十五日
歿ス年七十四若狭国遠敷
郡発心寺ニ葬ル

信友

平田篤胤

平氏通称大角
伊吹乃舎ト号
ス出羽秋田ノ人ナリ江戸
ニ出テ修学ス深ク鈴屋翁
ヲ慕ヒ門ニ入ント歿スル
ニ其秋翁既ニ歿セリ爰ニ
於テ志ヲ春庭大平主等ニ
告テ歿後ノ門人ト称ス曾
テ夢中鈴屋翁ト学事ヲ問
答セシトナトモアリシト
然シテ勉強比類ナク終ニ
一家ノ大見識ヲ立テ古今
未発ノ確論ヲ説ニ至ツテ
其名海内ニ震ヒ門ニ入テ
業ヲ受ルノ士頗ル多シ後
年識益々高ク学愈英逸ニ
シテ既ニ漢土印度ノ古籍
ヲ探リ我皇朝ノ典故ヲ明
ニス世ニ称シテ古今獨歩
千載ノ一人ト又過タル

篤胤

ニアラス実ニ学識絶倫英
才無比ノ学士ト云ヘシ翁
屋翁ノ学爰ニシテ全ク備
レリトス著者千巻既ニ百
部ニ余ル時ニ天保十四年
壬九月十日歿ス年六十八
諡曰灵迺神柱乃灵神ト

篤胤
篤胤
和心

和心
平国寺

本居建正 大平翁ノ長子
十リ通称矢野
篤行ニシテ頼リニ古学ヲ
修シ頗ル進ンテ大成セン
トシテ惜イ哉若ニシテ歿
セリ

建正

本居清島 大平翁ノ次子
十リ通称丸新
士頗ル父ノ意ヲ嗣テ修学
シ既ニ大成ナラントシテ
歿ス惜イ哉

清島

本居永平

大平翁ノ季子
ナリ頗ル修学

シ頻リニ進ントシテ歿ス
中山美石ノ紹介ニ就テ参
河吉田彦ニ仕テ電ヲ蒙ル

小西春村

伊勢松坂ノ人
鈴屋翁ノ二子

タリ小西某ノ家ヲ嗣リ故
ニ通称ヲ小西太郎兵衛ト
イヘリ実父翁ニ学シテ詠
哥ヲ善セリ

本居美濃子

鈴屋翁ノ女
ナリ伊勢松

坂小洋某ノ家ニ嫁ス詠哥
父ニ学シテ尤モ善セリ又
文詞ニモ長ス

和泉真國

江戸ノ人通称
東吉郎和麻呂

ト云フ大平翁ノ門ニ入テ
源夕鈴屋ノ学風ヲ慕ヒ頗
リニ研究ス曾テ村田春海
ト令義解ノ大論アリ以テ
博覧多通ヲ示ス

海野幸典

江戸ノ人ナリ
大府ノ内人

タリ遊翁ト号ス大平門ニ
シテ故翁ヲ慕ヒ頻リニ天
尔表波ノ学ヒテ精細ニシ
テ一家ヲナス迄ハ学フノ
士頗ル多シ

石津亮澄

大坂ノ人ナリ

通称屏助大平

門ニシテ詠哥又古学ヲ修
シテ頻リニ進ニテ迄テ
教示ス

亮澄

亮澄

中山美石 参河吉田ノ藩士ナリ大平門ニシテ古哥ヲ研究シ大イニ進ンテ世ニ称セララル

美石

釋義門

若狭小濱妙玄寺ノ住持一向宗ナリ大平門ニシテ頓活ニ活諾ノ学ヲ研究シ終ニ一家ヲナス其風ヲ慕ヘルノ人多シ

義門

近藤光輔

長崎ノ人ナリ大平門ニシテ詠哥ヲ以テ世ニ称セララル門人甚多シ

青柳種信

筑前ノ藩士タリ通称勝次大平門ニシテ古学ヲ唱ヘテ世ニ称セララル詠哥又善セリ

種信

鈴木真實 尾張ノ殿人ナ
平門ニシテ修学シ諸交友
甚多シ

鈴木春蔭 尾張ノ殿人ナ
リ通称多門次
大平門ニシテ奇学ヲ修シ
テ善セリ

大橋長廣 京師ノ人ナリ
通称九右衛門
柿園ト号ス大平翁ノ門ニ
入テ古学詠哥ヲ修シ甚タ
進ニテ称誉セラレ門ニ入
テ教ヲ受ルノ徒頗ル多シ
嘉永四年三月五日歿ス年
六十四

長廣
春蔭

業合大枝 備前ノ人ナ
リ初ノ藤井
高尚ノ門ニ入テ修ス後
平田篤胤ニ及ヒ古学ヲ研
究シテ大イニ進ニ時ニ称
セラレ

大枝

河崎重恭 江戸ノ人ニ
乎田翁ノ門
ニ入テ幼キヨリ古道ヲ修
学シ時ニ才子ト称セラル
惜イ哉若フシテ天保四年
歿セリ

新莊道雄 下野ノ人ニ
通称仁右エ
門平田門ニシテ巨擘タリ
篤学ニシテ志厚キ人ナリ

道雄

山崎篤利 下総崎玉郡
人ナリ通
称長左エ門平田ノ字風ヲ
添ク慕ヒ其門ニ入テ修シ
大イニ翁ヲ助ク

篤利也

穂井田忠友

通称探助
河ノ人江戸

ニ出テ平田翁ノ塾中ニ有
テ修学ス後京師ニ出香川
景樹ニ從ヒテ詠哥ヲ修ス
後頼リニ天乎年頃ノ学ヲ
研究シテ一家ヲナシ世ニ
称セラル博覧多通ナリ弘
化四年九月十八日歿ス年
五十六

忠友

穂忠友印

田山敬儀

通称後事伊賀
人藤堂家ノ

藩士タリ京師ニ出テ芦菴
ノ門ニ入テ修学シ頼リニ
進シテ終ニ一家ヲナシテ
時ニ鳴ル芦門四天王ノ第
一ト称ヒラル文化十一年
四月九日歿ス年四十九

良元安

田山敬儀

田山敬儀印

敬儀

前波嘿軒

京師ノ人ナリ
詠哥ヲ善シテ

時ニ称セラル芦門四天王
ノ一人ナリ文政元年十二
月十日歿ス年七十四

嘿軒

唯好

小川萍流 京師ノ人通称
勇初名ハ布淑
俊難髪シテ萍流ト号ス詠
哥ヲ善ス芦門四天王ノ一
人ナリ文政三年二月廿七
日歿ス年六十五

舟

舟

小野勝義 京師ノ人ナリ
芦門四天王ノ
一人ナリ中年江戸ニ出テ

加藤千蔭ト交遊シ益修学
ス後京ニ帰リテイヨク
唱フ

勝義

羽倉信美 東羽倉ト号ス
荷田氏ナリ洛
南稻荷ノ祠官クワリ後四佐
上上総介ニ叙任ス芦門ノ
巨擘ナリ文政十年十一月
卒ス

信美

小野重賢 天朝ノ官人ナ
リ後四位上筑
前守ニ叙任ス蟻舘ト号
芦門ノ巨擘ニシテ有識ノ
学ニ精シ昏法又上代風ヲ
善ス天保五年正月卒ス

重賢

羽倉信愛

荷田氏後四佐
下ニ叙ス芦門
ニ入テ詠哥ヲ修シテ最モ
善セリ

信愛

四方田長淳

京師ノ人ナ
リ芦門ニシ
テ詠哥ヲヨクセリ

長淳

瀧原宋閑

吳鑑寺ノ宮ノ
邸内入ナリ通

抔將監芦菴ノ門ニ入テ詠
哥ヲ修シ頗ル進ンテ度ヲ
返テ教示ス天保十一年歿
ス

宋閑

馬

吉田元長

京師ノ人ナリ
通称四郎右衛
門書林タリ詠哥ヲ好ンテ
芦菴翁ヲ慕ヒ門ニ入テ修
ス文政七年壬八月廿九日
歿ス年四十九

三絨

芦門ニ入テ詠
哥善ス名譽ア

三絨

碩菴

鎌田氏履瑞軒ト号ス黙軒門世ニ

名アリ

碩庵

物外尼

テ世ニ名アリ

芦庵門ニシテ詠哥ヲヨクシ

あの

浮木

岡崎村ニ住ス翠雲軒澄月叟

ノ遺跡ヲ嗣哥学詠哥ヲ修ス文政八年四月三日歿ス年五十四

富士谷成章

京師ノ人ナリ名成章字仲達

初層城ト号ス柳川廣京郊ノ守タリ儒家皆川淇園ノ弟ナリ幼ヨリ群童ニ秀拔シテ三歳昏ヲナシ七歳ニシテ能ク詩ヲ賦ス韓人來聘ノ時九歳ニシテ筆話ニ及フ大イニ賞セリト述世超越ノ俊才子ナリ後一見識アツテ一家ノ学風ヲ開キ世ニ鳴ル門ニ入業ヲ受ルノ士頗ル多シ其徒連々トシテ絶ス惜イ哉安永八年十月二日年四十二ニシテ歿セリ兄淇園歎惜シテ其平生ヲ悉カニシ墓碑ニ録ス

成章

成筆



富士谷御杖

成章ノ男ナリ
通称専右衛門

初ノ名ハ成寿又成元ト云
後御杖ト改ム和奇国学父
ノ業ヲ受テ家色ヲ落サス
世ニ鳴ル又彈琴ノ伎ニ妙
ヲ得テ其伎甚夕賞ス著唇
ヲシ刊行シテ流布ス文政
六年十二月十六日歿ス年
五十六家学世々ニ傳フ

成壽

免

御杖

榎並隆璉

京師ノ人通称
助之丞御杖ノ

門ニ入テ修学シ其奥旨ヲ
究ム精密篤厚ノ学士ニシ
テ其著唇數百卷アリ弘化
元年五月廿五日歿ス年七
十

隆璉

隆璉

並河基廣

青蓮院ノ宮ノ
御内人タリ通

称式部御杖ノ門ニ入テ修
学シ其夙ノ奥旨ヲ得テ教
示ス天保十二年十一月二
日歿ス年五十二

基廣

福田美楯

京師ノ人ナリ
通称龙兵衛幸

舎ト号ス御杖門ニシテ修
学十其奥旨ヲ究ム富士谷
氏ノ子幼ナルヲ以テ都講
シテ教示ス其徒頗ル敬セ
リ嘉永三年五月卅日歿ス
年六十二

美楯

香川景楯

因幡鳥取ノ人
ナリ若ニシテ

京師ニ出黄中ニ從ヒ苛学
ヲ受黄中其才ノ凡ナラサ
ルヲ愛シテ入テ養子トス
後故有テ他人ニ嗣シメテ
自ラハ一家ヲナス然レ共
其姓ヲ名ノルカクテ益修
シ終ニ述世超越ノ詠詩ノ
堪能ト称セラル居ヨ洛東
岡崎村ニトシ又鴨河ノ西
涯ニ別居ス時ニ夙ヲ大イ
ニ唱フ從ヒ学フノ徒始ト
キニ及フト実ニ述世和哥
者流突出ノ大家ト云ヘシ
晩年益昌ニニシテ其後ニ
アラサルノ士モ翁ノ風調
ニ倣フ多シ後琉球國ノ王
子来聘ノ時其夙ヲ慕ロ門
ニ入テ修学ス又昌ニナラ
スヤ翁初ノ長門介後從五
位下ニ叙シ肥後守ニ任ス
時ニ天保十四年三月卅日
卒ス年七十四洛東開名寺

ニ幕ル後謚シテ桂園灵社
ト曰フ翁号ヲ東塙亭又桂
園ト号ス

景樹

景樹

山本清樹

龜園ト号ス京
師ニ住ス本尾

張ノ人ナリ桂園門ニ入テ
修学シ頻リニ進ンテ度ヲ
延テ教示ス

中川自休

京師ノ人ナリ
洛北平野ニ住

ス望南亭ト号ス桂園門ノ
巨擘ニシテ門人ヲ教示ス

木下幸文

倫中国長尾
村ノ人ナリ

俗称民藏京師ニ出テ桂
園門ニ入テ奇学ヲ修ス
頗ル進ンテ昌ニ其風
ヲ唱テ世ニ称セラル既
ニ桂門ノ冠冕ト呼ル著
各アリ世ニ行ハル

幸文

菅沼斐雄

通称頼母桂
園門ニシテ

大イニ修学シ頗ル詠奇ヲ
研究シテ堪能ニ至ル曾テ
桂園翁ト俱ニ江戸ニ出テ
昌ニ唱フ門ニ入テ教ヲ
受ルノ者甚多シ

斐雄

富田泰州 近江彦根ノ人
ナリ京師ニ出
テ桂園門ニ入テ哥学ヲ修
シ頗ル善シテ門人ヲ教示
ス天保十一年五月廿五日
歿ス年五十桂園ノ巨擘夕
リ

教示

山本嘉之 大炊御門家ノ
大夫タリ相摸
守俊致仕シテ頻リニ桂園
風ノ詠哥ヲ唱フ門人甚々
多シ

由之

高橋殘夢 浪花ニ住ス名
正澄桂門ニシ
テ頗ル詠哥ヲ修シ後ヨ延

テ教示ス

山田清安 薩摩ノ藩士ナ
リ京師ノ苗主
居ヲ知ム通称市郎左衛門
作楽園ト号ス桂園門ニ入
テ哥学ヲ修シテ頗ル善ス
後頻リニ古学ヲ勉強シ且
諸家ノ記録ヲ涉獵ス殊ニ
鈴屋伊吹屋伴ノ三翁ノ学
ヲ慕ヘリ嘉永元年十一月
国ニ帰リ故有テ自歿ス年
五十六

山田清安

松岡帰厚 吉田家ノ家司
ナリ通称充内
桂園門ニ入テ修学ス又古

下 二二二

字ヲモ禎リニ修シテ進ノ
リ嘉永三年歿ス

松田直兄

加茂ノ祠官タ
リ正四位下伊

豫守ニ叙任ス藤園ト号ス
堂錦門ニシテ四天王ノ一
ナリ詠哥ヲ以テ時ニ鳴ル
其門ニ入ノ士頗多シ曾テ
筆道ノ奥旨ヲ傳フ世大イ
ニ称誉ス嘉永七年二月廿
一日卒ス年七十二家集ア
リ刻シテ行ハル

直兄

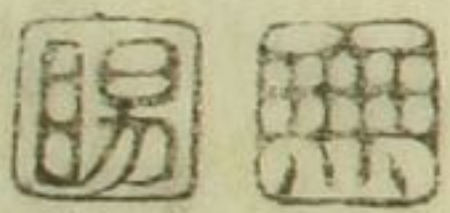
直兄

上田秋成

浪花ノ人ナリ
通称東作醫ヲ

以テ葉トス後醫ヲ廢シテ
和漢ノ唇ヲ大イニ研究シ
博文強記タリ加藤美樹ノ
浪花ニ来ルヲ待テ門ニ入
頻リニ古学ヲ修シ終ニ一
家ヲナシ大イニ世ニ鳴ル
平生シハノ其居ヲ変ユル
ヲ以テ自ヲ鶉居ト号シ又
無腸又餘齋ト号ス殊ニ煎
茶ヲ愛シテ中興シ其法則
ヲ立ル後年七十ニシテ文
事ヲ廢シ嬰兒ノ戯レヲナ
シテ天然ヲ終ラントス時
ニ文化七年歿ス年七十八
南禅寺中ニ葬ムル

世為



改姓

清原雄風

豊後岡ノ人ナリ初警ヲ業トシ亀井道哉ニ就テ漢学ヲ修シ大イニ進三岡学館ノ司業トナル後国ヲ出所々流遊シテ雲水ノ僧ノ如シ後下総香取ニ往コハニ千箇春海ノ輩ト交リテ国学詠哥ヲ修学シ堪能ニ至リ江戸ニ出テ凌ヲ交ラ唱フ俗称小沢玄達兼雲道人ト号ス初ノ名ハ藏字伯高崑岡ト号ス性豪放不羈事ニ不拘文化七年八月廿

日歿ス年六十四

雄風

稿本經亮

橘氏洛西梅宮ノ祠官及五位上肥後守ニ叙任ス香團又梅窓ト号ス有職古実ノ学ニ精シクシテ一家ヲナス詠哥ハ若菴蒿磯ノ輩ト交リテ善ス性奇ニシテ凡テ人意ノ外ニ出ル其平生ノ行狀一トシテ奇ナラサルナシ文化五年四月十日卒ス年四十七

經亮

尾崎雅嘉

浪花ノ人ナリ
通称春藏字ハ

有奥華陽ト号ス和漢ノ群
昏ニ通シテ著述頗ル多シ
其昏世ニ益アルモノナリ
詠哥ヲモ好シテヨクス文
政十年十月三日歿ス年七
十三

雅嘉

石原正明

初名ハ將聴後
正明ト改ム尾

張ノ人ナリ通称喜左エ門
頼リニ哥学ヲ研究シテ一
家ヲナス著昏晁モ多シ

正明

清水濱臣

藤原氏通称
玄長泊々舎

ト号ス江戸不忍ノ池辺ニ
住ス春海門ニシテ詠哥古
学ヲ研究シテ大イニ精巧
ニ至リ頗ル世ニ鳴ル時ニ
没シ学フノ士甚多ク著昏
多シ文政七年八月十七日
歿ス年四十九家集アリ世
ニ行ハル春海門ノ一家
ナリ

濱臣

正明

元岡芳香

江戸ノ人初
春ハニ学ヒ

後春海ニ就テ修学ス

平務廉 江戸ノ人通称
彦八竹庵ト号
ス春海門ニシテ修学シ頓
リニ唱フ殊ニ文章ヲ善シ
テ時ニ鳴ル

務廉

秋山光彪 豊前小倉ノ藩
士京邸ノ留主
居ヲ勤ム通称注兵衛春海
門ニ入テ詠哥ヲ修シ古学
ヲ研究ス家集アリ世ニ流
布ス

大江廣海

越後ノ人江戸
ニ出テ村田翁
ノ門ニ入テ学ヒ頼リニ修
シテ終ニ一家ヲナス京師
ニ来リ凌ヲ延テ教示ス通
称鞠員天保五年六月廿三
日歿ス

正木千幹

江戸ノ人初清
原雄風ニ号
ヒテ学ヒシニ雄風ノ日汝
ノ才気我門ニ在ニアラス
橘千蔭ヲ以テ師トスヘシ
ト爰ニ其意ニ送ヒ千蔭ノ
門ニ入テ修学シ終ニ一家
ヲナス

千幹

一柳千古

江戸八町堀ニ
住ス字萬豫山
ト号ス又章堂ト云千蔭門
ニシテ晁モ詠哥ヲヨクシ
又文章ヲ以テ専ラトス文
政年歿ス

千古

大石千引

江戸ノ人之
千蔵門ニシ
テ修学シ頓リニ其夙ヲ唱
フ度ヲ延テ教示ス

巨勢利和

椿園ト号ス
後五位下日
向守タリ千蔵ヲ慕ヒ大イ
ニ其夙ヲ得昏又千蔵ニ学
ヒテ等シキカ如シ翁ノ家
集ヲ刻シ又翁ノ墓碑ノ銘
文等ヲ録セリ

利和

利和

加茂季鷹

上加茂ノ初
官山本氏正

四位下安房守ニ叙任ス雲
錦亭ト号ス初有栢川職仁
親王ノ御門ニ入テ詠哥ヲ
修学ス後江戸ニ往テ千蔵
翁ニ交リテ事ヲ問フ後益
進ンテ其名海内ニ震ヒ推
夫牧童トイヘ凡其名ヲ知
ラサルハナシコ、ニ於テ
詠哥ノ深華ヲ求ムルモノ
市ヲナス又狂哥ヲ善シテ
人コレヲ争ヒ求ム其門ニ
入ル上貴介公子ヨリ下戯
場ノ能優ニ至ル名声ノ世
ニ高キ埃翁ノ如キハ稀ナ
リ時ニ天保十三年九月卒
ス年九十一

季鷹



源躬絃

江戸ノ人ナリ
通称安田一庵

醫ヲ以テ業トス千禧春海ノ輩ト交リテ古学ヲ修ス初ノ加茂孝雅翁ノ門ニ入テ詠哥ヲ研究ス後一家ヲナシテ其名大イニ震フ既ニ万葉集畧解作者ノ一人ナリ

躬絃

大堀正輔

近江彦根ノ人
京師ニ出テ李

雁ノ門ニ入テ修ス又江戸ニ往テ千禧ニモ就テ詠哥又昼体ヲ学フ

正輔

垣本雪臣

伊勢国ノ産
ナリ幼ヨリ

京師ニ出漢学ヲ龍公美ニ受詠哥ヲ伴蒿蹊ニ就テ学ヒ有職ノ学ヲ橘径亮ニ問フ時ニ仁和寺ノ宮ニ仕ヘテ竈アリ後加茂季雁ニ後ヒテ詠哥ヲ学ヒテ出藍ノ名アリ又狂詩狂哥狂文等悉ク妙ヲ究ム禹モ又呉月漢ニ学ンテ一体ヲナセリ

性酒ヲ好三世事ニ拘ラス
意ノ欲スルニ任ス天保十
年十一月三日歿ス年六十
三城南八幡ノ里ニ葬ムル
翁マタ唇ヲヨクス号ヲ菘
町ト云

雪月
雪月
雪月
雪月

河本公輔

備前岡山ノ
人ナリ氏ハ

三名京師ニ出テ加茂雲錦
ニ就テ詠哥ヲ修シ終ニ一
家ヲナス又大平翁ニ從ヒ
テ古学ヲ研究ス就テ教ヲ
受ルモノ甚多シ天保三年

六月十八日歿ス年五十八



青木行敬

京師ノ人官
人ナリ宗岡

宮内サ巫タリ雲錦門ニシ
テ詠哥ヲ修シテヨクセリ

埴保巳一

上総ノ人江
戸ニ住ス若

ニシテ眼疾ヲ病終ニ明ヲ
失口檢校ニ至ル性強記絶
倫ニシテ一度耳ニ觸ル終
身忘ル、ナシ頓リニ古典
ヲ涉獵ス終ニ官ノ和学
講談所ニ任シ又職惣檢校
ニ任ス爰ニ普子ク古唇ヲ
集輯校正ナシテ群唇類
六百三十六卷ヲ刊行シ又
鏡集既ニ千百八十五卷將
ニ刻セントス一盛事ナリ
文政四年九月十一日歿ス年

七十六法号ヲ和学院前惣
檢校心眼明光居士トス

保巳一

斥岡寛光

江戸ノ人ナリ
通称周助藤原

氏頼リニ修学シ終ニ一家
ヲナシ門ニ入テ教ヲ受ル
ノ度ヲシ

寛光

高井八穂

江戸ノ人ナリ
通称伊十郎ナ

陰春海ノ諸友ト交リテ頼
リニ唱フ後ヒ字フモノヲ
シ

八穂

木村定良

江戸ノ人ナリ
専ラ詠哥ヲ

千薩春海ノ輩ト交リテ修
シ大イニ進ニテ度ヲ教示
ス草野集ヲ著ハシテ世ニ
益アリ

定良

山本清溪

名正臣藤原
氏京師ノ人

江戸ニ出テ頼リニ哥学ヲ
唱フ文政六年九月十日歿



藤原正長

岸本弓絃

平氏江戸ノ
人通称大隅

権園ト号ス博學淹通ニシ
テ著述ヲ専門トス世ニ益
有ル甚多シ詠哥又精巧夕
リ名声籍甚シ弘化三年五
月十七日歿ス年五十八江
戸林宗院ニ葬ル

由三法

長野美波留

江戸ノ人之
詠哥ヲ専門
トシテ善シ伎ヲ定テ教示
ス

美波留

小山田與清

江戸ノ人之
初通称高田

正次郎後小山田將曹ト改
ム字文儒頻リニ古學ヲ研
究シテ大イニ世ニ鳴ル家
ニ數万卷ノ帙ヲ藏シテ博
覧多通ナリ著帙多シ号ヲ
擁唇翁ト云弘化四年三月
廿五日歿ス年六十五

与清

本間游清

江戸ニ住ス
伊豫吉田侯
ノ藩哥學ヲ修シテ時ニ称
セラル弘化中歿ス

游清

長尾景寛 江戸ノ人通
称仁丸工門
哥字ヲ以テ専門トシテ時
ニ称ス

關目安良 江戸ノ人
通称長右工
門哥字ヲ以テ時ニ称譽ス

小寺清之 備中ノ人
楯園ト号ス
古学ヲ修シテ大イニ進ム
又歌哥ヲヨクス

清之

蓮阿 浪花ノ人ナリ
初名ハ景秀
蓮阿ト改ム哥字ヲ修シ

詠哥ヲヨクス海月堂ト号ス

孝河

高屋友助 京師ノ人ナ
リ詠哥ヲ以
テ専門トシ凌ニ受ク

友助

金谷貞詩 浪花ノ人
通称与右工
門哥字ヲ修シテ詠哥ヲヨ
クス

益谷未寿 伊勢内官ノ
師職タリ通
称大学古学ヲ修シテ時ニ
称ス詠哥又ヨクス

青木永章

肥前長崎訊
訪官ノ官司

タリ後五位上
丹波守ニ叙
任ス詠哥ヲ以テ時ニ称ス

永章

衣川長秋

通称赤井哥
学ヲ修シ度

ヲ巡テ教示ス

長谷川菅渚

通称三折和
泉ノ人ナリ

哥学古学ヲ修シテ度ニ教
示ス

中村良臣

津国伊丹ノ
人ナリ通称

孫四郎播ノ赤穂侯ニ仕フ
哥学ヲ以テ時ニ称ス後ヒ
学フモノ多シ

橘守部

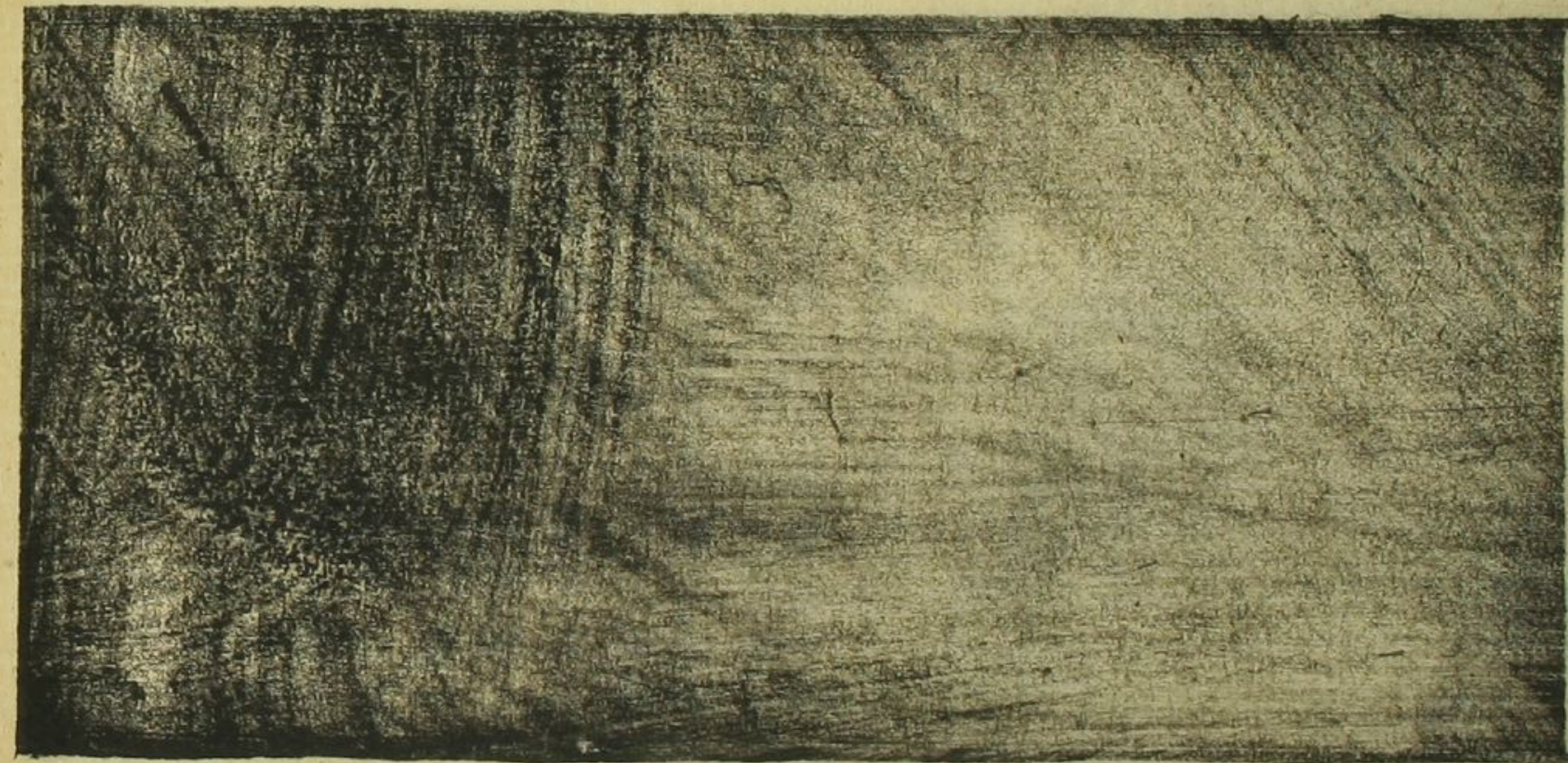
伊勢ノ人ナリ
通称北畠源

助池庵ト号ス江戸ニ出テ
一家ノ学ヲ唱ヘ大イニ世
ニ鳴ル其学風古人ニヨラ
ス然ンテ諸歌ノ如キハ実
ニ確乎タルアリテ人意ヲ
驚カス佐才英士ト云ヘシ
晩年古道ヲ釈ニ至テ又一
家ノ学風ヲ立コレヲ崇尚
スルノ度多シ喜永二年七
月歿ス年七十世ニ伴信友
平田篤胤香川景樹橘守部
コレヲ天保ノ四大家ト称
ス

守部

橘

守部



出納職忠

中原氏正四位上
大藏大輔二叔
任入革菴ト号ス有職故実
ノ学ニ精シクシテ頗ル世
ニ称誉ス殊ニ律令格式ヲ
研究ス万治三年六月十六
日卒ス年八十一

西道智

宗庵ト号ス醫
ヲ以テ業トシ
因各ヲ好ンテ博ク涉獵シ
普ク記傳有職ニ通シ度ヲ
迄テ教示ス寛文中ノ人ナ
リ

山岡明阿弥

名俊明字子
亮通称古次
右衛門林道春ノ門ニ入テ
経義ヲ学ヒ中年志ヲ變シ
テ皇朝ノ記傳ヲ研究シ
終ニ一家ヲナスニ至ツテ
大府ニ召レ奉仕シ薙髮シ

テ明阿弥ト号ス傍ラ詠哥
好ニテ善セリ

出口延佳

伊勢内宮ノ祠
官正四位下ニ
叙シ信濃守ニ任ス因学ヲ
頼リニ修シ古事記旧事記
ヲ殊ニ研究シテ世ニ鳴ル
寛永中ニ卒ス

出口延経

延佳ノ子ナリ
進称帯刀家職
嗣テ初官ヲ務メ且父ノ志
ヲ受古典ヲ研究ス

吉川惟足

湘山隱士ト号
ス又視音堂ト
云古典ヲ修シ且神典ヲ研
究シテ終ニ一家ヲナシ頻

リニ神道ヲ奉シテ門ヲ立
度ヲ延テ教示ス後ナ大府
ニ召レテ神俗ヲ講シ神道
方ニ命セラレ世々綿々シ
テ其職ニアリ傍ラ詠哥ヲ
ヨクス元禄七年十一月十
六日歿ス年七十九

吉川惟足
延佳

道且居士

名熙進通称傳
右工門竜野氏
尚舎ト号ス伊勢山田ノ人
神仏幽玄ノ理ヲ得テ頻リ

ニ唱フ後生白ト号ス元禄六年八月二日歿ス年七十ハナリ

生白

藤波時綱

真野縫殿助ト称ス京師ニ住ス其父ハ内宮ノ初官クリ

大イニ神道ヲ奉シ都下ニ鳴ル教ヲ受ルノ度頗ル多シ元禄中ニ歿ス

僧雲蝶

道且居士ニ号シテ頻リニ修学シ終ニ一家ヲナス

黒川道祐

名玄逸字道祐梅林ト号ス藝州彦ノ儒醫ニシテ後辞シテ洛ニ住シ頻リニ皇朝ノ典故ヲ研究ス

道祐

宮城春意

名春意字伯実江戸ノ人ナリ一柳侯ノ招ニ応シ伊豫ニ往テ国俗ヲ講究ス

谷重遠

通称丹三郎順ル漢学ニ精シク皇朝ノ国史律令格式等普子ク涉獵セサルナク古俗ヲ校正シテ著唇甚タ多シ享保三年六月卅日歿ス年五十六

青木永弘 肥前長崎ノ人
 諏訪社ノ習
 タリ後五佐下周防守ニ叙
 任ス神道ヲ頓リニ唱ヘ古
 学ヲ修シテ時ニ鳴ル享保
 元年正月十日歿ス

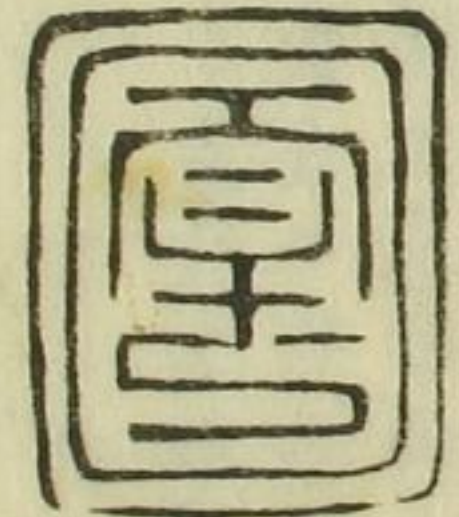
天野信景

尾張ノ人通称
 治部祖先ハ藤
 内遠景七代ノ裔下野守景
 隆ノ曾孫民部少進遠幹十
 七代天野孫作信幸ノ男十
 リ享保八年病ニヨリテ職
 ヲ辞シ同十五年致仕シ雍
 髮シテ信阿弥陀仏ト号ス
 又白華翁ト称ス同十八年
 九月八日歿ス年七十三翁
 ハ文武ヲ兼備シ又 皇朝
 ノ神道ヲト部家ニ就テ修
 シ和哥ヲモ好ンテヨクセ
 リ塩虎二百余卷ヲ著ハシ
 テ世ニ称譽ス

壺井雀翁

名義知通称
 安右工門雀

翁又温敏軒ト号ス有職ニ
 精シク古典ヲ修ス其名大
 イニ振フ享保二十年十月
 廿四日歿ス年七十九城東
 清光寺ニ葬ル



壺井雀翁

壺井義知

鶴翁



谷村光義 城南石清水ノ社土壺井門

速水房常 京師ノ人ナリ壺井氏ノ

門ニ入テ修学シ有職官実ニ精シク殊ニ律令格式ヲ研究シテ世ニ称セラル又詠奇ヲ好メリ

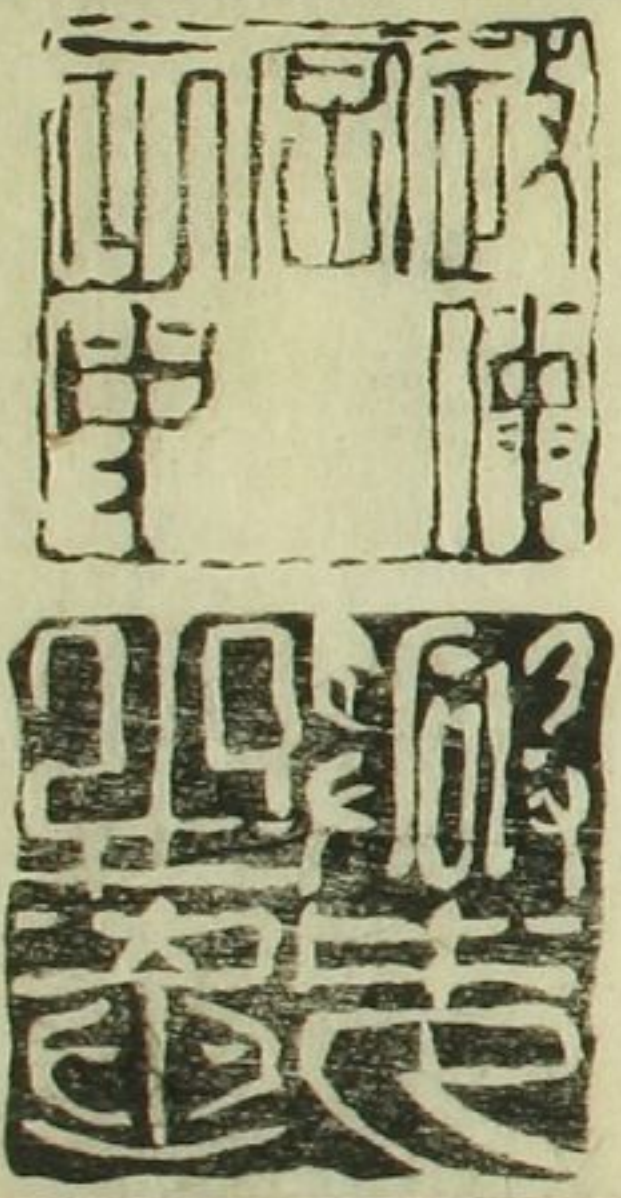
房常

多田義俊 名義俊通称進藏後兵部又將

監ト号ス洋国ノ人京師ニ出テ壺井氏ニ古実有職ヲ修シ頗リニ古典ヲ研究シシ博覧多通ナリ大イニ時ニ鳴ル後故アリテ壺井ノ門ヲ破リテ享保九年名ヲ政仲ト改ム後マタ義俊ト更ム又満泰トモ云又桂秋

壽南嶺子等ノ別号アリ又満泰トモ云シテ半時庵於々ト交友ス晩年マタ名ヲ秀樹ト改ム又桂左エ門武起トモ称シタリ凡テ強識ノ人ナレ共其才ニ任セテ人ヲ欺ムクノ説モアリト寛延三年九月十二日歿ス年五十三

義俊



植松宗清 宗南ノ男ナリ父ト俱ニ多田

翁ノ門ニ入テ修ス

山本吉利

桃溪ト号ス多田氏ノ門ニシテ国昏ヲ修学ス

松崎義克

多田氏ノ門ニシテ国史ヲ修ス

上田光秋

多田氏ノ門ニシテ殊ニ強識ナリ著唇頗ルアリ

伴部安宗

名安宗八垣翁又止定翁ト号ス通称武右エ門大府ノ棋士ナリ岳加夙ノ神道ヲ修シ後一家ノ見識ヲ發明シテ大イニ唱フ迄テ教示ス享保ノ初年歿ス年六十余ナリ

跡部光海

名良賢或良顯トス官内ト称ス大府旗下ノ士儒ヲ佐

藤直方ニ学フ後岳加夙ノ神道ヲ慕ヒ安宗ト俱ニ其業ヲ切磨シ終ニ一家ヲナシテ是レ学フモノ頗ルヲシテ享保十四年歿ス年七十一

板垣民部

京師御灵ノ社ノ初官ニシテ垂加ノ門ニ入神道ヲ受テ頼リニ唱フ

高田赤白

浪花ノ人ナリ垂加ノ門ニ入テ神道ヲ唱ヘ神昏ヲ講シ凌ニ受ク

山本源蔵

津ノ国ノ人ナリ垂加ノ神道ヲ修シテ大イニ其風ヲ唱フ

玉木葦斎

名正英五十籍湖翁ト号又神学ヲ垂加ノ門ニ入テ修シ

大イニ研究シテ終ニ一家ヲナシ頗ル世ニ称誉セラ
ル其門ニ入テ業ヲ受ルノ
徒多ク一ノ学風ヲ與セリ
石文元年七月八日歿ス

岡田盤齋

名正利磯波
翁ト号シ又

盤齋ト云フ通称左近近江
ノ人跡部光海ノ門ニ入テ
神道ヲ修シ後師説ヲ發明
シテ一家ヲナシ江戸ニシ
テ神道ヲ唱フルモノ多ク
ハ坎翁ノ風下ニアリト
享元年六月十五日歿ス年
七十八著唇数部アリ

中根白山

平氏名璋字
元圭一号ヲ

律衆軒ト号ス通称大右

門筆術ニ妙ヲ得且天竺
ニ精シクシテ著唇多シ
然シテ国史ヲ研究シテ
世ニ称セラル

立野蓬生菴

名春節京師
ノ人ナリ漢

字ニ精シク又国唇ヲ研究
シテ古唇ヲ校正スル甚多
ク又職原ニ精シ

高屋近文

收駿寓ト号フ
大イニ神典ヲ

研究シテ度ヲ延テ教示ス
マタ国史ヲ博ク涉獵ス

橘守國

後素軒ト号
ス通称惣兵

衛頼リニ 皇朝ノ雜史ヲ
涉獵シ大イニ雜唇ヲ著ハ
シテ時ニ鳴ル且画ヲモ能
シテ著唇ノ画等自ラ画ク
多クシ

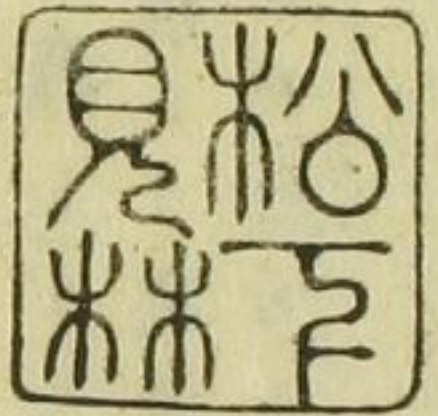
徳と園

松下見林

名秀明見林ト号ス又西峯子

ト云フ醫ヲ以テ業トシ漢学ニ精シク博覧強識ナリ殊ニ皇朝ノ古典ヲ普クク汲獵シ其発明スルコト多ク古俗校正シテ世ニ流布セシム又異称日本傳ヲ著ハシテ其孩博ヲ知ル人大イニ称譽ス

松下見林



五

土肥經平

平氏通称典膳備前ノ人ナリ

専ラ皇朝ノ武家有職ヲ研究シ著唇ヲシ世ニ称譽セラル

石野廣道

中魚氏名廣道俊五位下遠江

守哥学ヲ好シテ大イニ修シ頻リニ著唇アリ

井澤長秀

名ハ長秀蟠龍子ト号ス通称

十郎左衛門讚岐ノ人ナリ博ク因唇ニ通又漢籍ニモ精シ著唇甚クシ

常静公羽

初名兒嶋助三郎魚高成ト云

出雲松江ノ士ナリ故有テ隱居シ佐々木丹治ト改名

ス浪花ニ漂居シ後播磨松
原村ニ住ス然シテ有職神
道ヲ唱ヘ時ニ鳴ル後其松
原村ニ常靜翁矣社ト尚崇
ス

高橋宗恒

御厨子所預
送四位上備

前守タリ有職故実ノ字ヲ
頻リニ研究シ野々宮定基
マノ門ニ入テ修学シ一家
ヲナシテ世ニ称譽ス著唇
家ニ傳フ

高橋宗直

宗恒ノ子ナ
リ家職ヲ受

テ御厨子所預後四位上若
扶守タリ初漢学伊藤東涯
ニ受ケ後父ノ志ヲ嗣テ大
イニ皇朝ノ古典ヲ修シ
殊ニ諸家ノ記録ニ通達シ
抄物數百卷宝石類谷二百
卷其他雜抄數部ヲ著ハス

同好ノ士其門ニ入テ学フ
モノ甚多シ後洛東岡崎村
ニ別居シ因南左人ト号ス
又和哥ヲモ好シテ芦菴澄
月ノ輩ト交リテ詠リ諸子
老先生ト称譽ス天明五年
正月二十四日卒ス年八十
五東山真如堂ニ葬ル私
謚シテ文敬先生トス

高橋

圖南

宗直



馬場信武

始尾田玄古
ト云後改姓
シテ馬場信武ト称ス古典

ヲ講究シ且神典ヲ研究シ
一見識ヲ立テ其凡ヲ唱フ
時ニ其名大イニ震ヒ及ヒ

馬場信意
信武ノ子ナ
リ父ノ業ヲ
嗣テ神学ヲ唱ヘ時ニ鳴ル
後ヒ学フノ士ヲシ

河村秀頼
尾張ノ人ナ
リ初名秀興
通称七郎信景ニ送ロテト
部風ノ神道ヲ受後一家ヲ
ナシテ家学ヲ闡ク

河村秀根
尾張ノ人秀
頼ノ弟ナリ
通称復太郎葎菴ト号ス兄

ノ志ヲ受大イニ国史ヲ研
究シ家学ヲ弥ク昌シニシ
テ頼リニ昏ヲ著ス其教ヲ
受其学ヲ慕フモノヲシ

河村殷根
秀根ノ男ナ
リ父ノ業ヲ
受頼リニ進ム通称一郎惜
イ哉年二十才ニシテ歿セ
リ

河村益根
秀根ノ次男
ナリ通称培
二郎乾堂ト号ス終身仕ヘ
テ辞シ度ヲ遂テ教示ス文
政三年歿ス年六十四

建部綾足

字喬孟寒兼
舟ト号ス南

郡ノ人ナリ江戸又諸国ニ
漫遊シテ諸伎ヲ修ス禹俳
諧等コトニ長シテ一風ヲ
十ス後一ノ見識ヲ立テ凡
哥ヲ唱ヘ自ラ凡哥ノ道守
ト称ス又和哥ヲモヨクセ
リ初凌岱凌岱ト云安永
三年三月十八日歿ス年五
十三

建凌岱孟喬



谷川士清

伊勢洞ノ津ノ
人名ハ昇字ハ

士清淡翁ト号有栖川識仁
親王ノ御門ニ入テ和哥ヲ
修シ凌頼リニ国史且語釈
ノ学ヲ研究シ終ニ大成シ
テ一家ノ風ヲ唱フ傍ラ時
ニ安永五年十月十日歿ス

年七十翁号ヲ淡舟ト云

淡舟
士清

伊勢安齋

名貞丈通称
平藏安齋ト

号ス大府ニ給仕ス幼ヨ
リ学ヲ好ミ家学ヲ研究シ
凌益修学シテ頼リニ有職
古実ニ精シク博覧強識普
子ク凌獵セサルナク且漢
学ニモ精シク又中世以後
諸家ノ日記記録ノ昏ニ於
テモ悉ク修シ頼リニ考證
ノ昏ヲ著ハス其学风海内
ニ靡ヒ仰慕スルモノ頗ル
多ク今ニ至ツテ益其風下
ニ坐スルノ士多シ其著昏

三百部ニ及フ時ニ天明四年五月廿八日歿ス年七十

真又


荒木田經雅

内官ノ神主

上ニ叙ス篤学強識ニシテ一家ヲナセリ曾テ大神官儀式帳解ヲ著ハス其考證ノ精密ナル無比ナリ学者甚夕賞セリ天明年中卒セリ

真野安通

藤原氏通称小七郎是翁

ト号ス安翁翁ノ門ニ入テ古実ヲ研究シテ精シク傳ヲ述テ教示ス寛政八年七月廿日歿ス年八十一

瀬名貞雄

源氏通称源五郎胤行軒

一号ス江戸ノ人 大府ニ給仕人伊勢夙ノ学ヲ慕ヒ門ニ入テ研究シ頓リニ進ム寛政八年十月四日歿ス年八十一

藤井貞幹

名貞幹字子冬通称叔藏

無仙翁ト号京師仏光寺中ノ僧家ノ子ナリ好古ノ学ニ精シク頻リニ群居ヲ涉獵シテ未幾ノ考ヘ甚夕

文化中歿ス

無佛幹

貞幹



大塚蒼梧 名嘉樹字子敏 通称市右工門

蒼梧ト号ス江戸ノ人ナリ
少年詩ヲ善ス中年ヨリ
皇朝ノ記傳ヲ講習シ兼テ
性理ノ学ヲモナシテ服栗
斎黒沢雉岡ナト友トシテ
晩年其名世ニ高シ文化元
年六月二十九日歿ス年七
十三

種玉庵宗祇

姓ハ三好飯尾氏種玉庵

又自然齋見外齋不審ト号
ス紀伊ノ人ナリ少ニシテ
律院ニ入テ薙髮シノ諸国
ノ勝區名山ヲ遊歴ス和哥
ヲ嗜シ東野州常録ニ就テ
修学シ古今集ノ傳ヲ受ル
コ、ニ連哥ノ風致ヲ興起
ス世宗祇ヲ以テ宗師トス
又花ノ下ト称ス文龜二年
七月卅日相模国菅根山ノ
下湯本ト云ニ遊歴シテ終
ニ病シテ歿セリ年八十二
ナリ駿河国境柁園ト云所
ノ山林定林寺ニ葬ル翁唇
体又勅筆流ヲ善ス

宗祇

五

五

五

五

五

法橋兼載 姓ハ平陸奥ノ人ナリ猪苗代

ト称ス後法橋ニ叙ス耕田
為ト号ス宗祇法師ノ門ニ
入テ頗ル連哥和哥ヲ修シ
終ニ一家ノ風ヲヒラク今
猶其子孫連綿タリ明応中
ニ歿ス

五

五

五

五

柴屋軒宗長

駿河国嶋田郡ノ歌ノ銀

治景ノ子 ナリ国司今川
義忠其幼才ヲ愛シ左右ニ
勤仕セシム宗祇法師國中
ニ遊歴ノ時其門ニ入テ連
哥修学シ遂ニ出家シテ名
ヲ改メテ歌中ニ一小菴ヲ
結ヒ又十八歳ニシテ初メ
禪ヲ普捨院ニ学ヒ後大徳
寺一休師ニ參禪ス永正元
年洛西泉谷ニ居ヲ移シ柴
屋軒ト号ス享祿五年三月
六日歿ス年八十五ナリ或
云大永六年トモアリ

宗長卿

宗長卿

宗長卿

宗碩

月村齋ト号ス宗祇法師ノ門ニ入

テ頼リニ修シコトニ奥義ヲ究ム又西三条道達院美隆公ノ脚門人ニテ和哥ノ事ヲ向フ

宗

宗梅 宗祇法師ノ門ニ
入テ頼リニ連哥
ヲ修シ普ネク天下ヲ漫遊
シテ終ニ一家ヲナス

五

素純

東野剛常録ニ古
今集ノ傳受ヲ得
テ頼リニ研究シ終ニ古今
集聞唇弁ニ切紙等巻ク口
傳ス連哥ノ宗函夕

素純
俊

櫻井基佐 中務丞法名永
仙京師ノ人宗
祇同時ノ人ニシテ友トシ
ヨカリシニ新菟玖波集ヲ
撰セラレケルニ基佐ノウ
ヲ入ラレス是ヲ懐リテ不
和トナリテ宗祇ノウヲ嘲
呼セリ

中務丞

素純

彦作

基佐

牡丹花肖栢

源氏字夢菴
又弄花軒ト

号ス獲津池田ニ任ス後和
泉塲ニ隱棲ス古今集ヲ宗
祇師ニ學ヒ然ニ傳授ニ至
ル又一休禪師ニ參禪シテ
心要ヲ究ム或曰肖栢津田
池田ニト居スル時四時ノ
花ヲ以テ次第ニ裁テ衆ト
ス故ニ弄花軒ノ号アリ性
酒ヲ好ニ香ヲ愛ス且花ヲ
併セテ三愛トス永正中
帝夢ニ牡丹花ヲ見給フ則
救シテ便殿ニ召觀シク唱
和シ奉ル帝天氣ウルハ
シクマシクテ物ヲ賜フ既
ニ又池田ノ幽栖ニ歸ル後
獲ノ乱ヲ避テ泉南ニ移住
ス大永七年四月四日歿ス
年八十五其流下ヲシテ堀
流ト称ス

牡丹

專順法橋

平安六角堂
油之坊法橋

ニ叙ス互花ノ宗本源タリ
連哥ヲ好ニ心敬法印ヲ友
トシ頼リニ修シテ精誡ヲ
得終ニ一家ヲナシテ世ニ
称譽ス

以

里村紹巴

原姓ハ松村氏
少年真福寺明

星院ニ寓居シテ喝食タリ
時ニ周桂トイヘル者連哥
ヲヨクス翁コレニ往テ連
哥ヲ學ヒ頼リニ修シテ終
ニ精妙ニ至リ大イニ世ニ
鳴俊法眼ニ任ス臨江翁又
宝珠菴ト号ス竟ニ新式ヲ
定メ勾法ヲ立種玉菴宗祇
カ俊宗長宗牧カ属アリト
イハレ紹巴翁ノ功アルニ
ハ及ハストソ連哥ノ中興

云へシ時ニ慶長七年四月
 十二日歿ス年七十九翁性
 豪放ニシテ事ニ不屈豊太
 尚銘巴ノ連哥ニ堪能ナル
 ナ愛シテ禄若于ヲ治ヒ竈
 遇頗ル厚シ然レ凡意ニ適
 セサレハ公ノ命トイヘ凡
 後ハス人其豪気ヲ恐ル翁
 モト南都ノ人ナリ故ニ其
 流下ヲシテ世ニ奈良流ト
 云フ

此ノ字也

宗

周



宗

宗訊

長門山口ノ人ナリ
 俗称友弘津国
 ニ来リ香花肖相ノ門ニ入
 テ連哥ヲ修学シ終ニ精巧
 ニ至リ一家ヲナス時ニ称
 誉ス

宗

宗周

長門ノ人ナリ宗
 訊ノ弟ニシテ連
 哥ヲ兄ニ学ニテ善セリ

心敬僧都

十住心院ト
稱ス聖護院

ノ院室ニシテ修験道ノ棟
梁タリ権大僧都法印ニ叙
任ス知ヨリ連哥ヲ好三時
輩ト交リテ頻リニ研究シ
大イニ其妙ヲ得ル其名世
ニ震フ文明七年四月十六
日歿ス

心敬

行助法印

惣持房ト号
ス連哥ヲ好
三心敬法印等ト交リテ
ヨクス

行助

里村元紹

銘巴ノ義子ナ
リ家風ヲ守リ
テ連哥ヲ修シ大イニ善シ
テ度ヲ延テ教示ス

元紹

里村元的

元紹ノ義子ニ
シテ大イニ連
哥ヲ修シテ家風ヲ益ク目
ンニセリ

里村昌休

傳未詳家風ヲ
守ツテ善ス

里村昌叱

京師ノ人ナリ
連哥ヲ好ンテ
頻リニ研究シ終ニ精巧ニ
至リ一家ノ方法ヲヒラク
時ニ豊大岡コレヲ召テ祿
若干ヲ賜ヒ世ニ稱譽ス連
哥七名人ノ一人ナリ時ニ

慶長八年七月廿四日歿ス
年六十五

下
五十二

里村昌琢 昌此ノ子ナリ
連哥ヲ大イニ
修シテ終ニ精巧ニ至ル後
法稿ニ叙シマスニ研究ニ
テ妙ヲ得ル寛永十三年二
月五日歿ス年六十一

昌琢

昌琢

里村玄仍 心前ト号ス連
哥ヲ好シテ修
シ一家ヲナス慶長十二年

四月廿三日歿ス年三十七

玄仍

里村玄仲 連哥ヲ修シテ
コトニ堪能ナ
リ世ニ称誉ス寛永十五年
二月三日歿ス年六十一

玄仲

目程 里村元のノ門ニ
入テ連哥ヲ修シ
テヨクセリ

昌規 里村元のノ門ニ
入テ連哥ヲ修シ
テ宗通タリ皮ヲ教示ス

昌通 里村家門人ニシ
テ頗ル連哥ヲヨ
クシテ名アリ

高山宗砌 高山氏連哥ヲ
好シテ大イニ
修シテ尤モヨクセリ時ニ
名アリ

宗規

溝材 柳江舟ト号ス連
哥ヲ修シテ頗リ
ニ習フ

山崎宗鑑

山崎宗鑑 名範光通称弥
三郎支那氏近
江ノ人佐々木氏ノ黨ナリ
連哥ヲ好シテ頗リニ修学
シ終ニ精能ニ至ルニ依テ
將軍家ニ召レテ給仕ス後
薙髮シテ南山城山崎ノ小
菴ニト居シテマス研究
スコ、ニ於テ世人山崎ヲ
以テ称ス後西国ニ赴ヒテ
飯路シハラク讃岐国栗
山ノ辺リニ遊止スコ、ニ
一夜庵ト号ス今寺院トナ
リタリ寛永二年十月二日
歿ス

宗惠 六字堂ト号ス連
 哥ヲ好ニテ善ス
 且和哥ヲモ頗ル修学シテ
 精巧ナリ宗碩カ夙ヲ慕ヒ
 頻リニ唱ノ万治年中ノ人
 ナリ

宗惠

藤原義泰

奥州岩山ノ城
 主左京大夫ニ
 任ス和哥ヲ好ニテ修シ後
 連哥ヲ頗ル研究シテ大イ
 ニ善セリ延宝年中ノ人ナ
 リ

稻津祇空

初青流ト号ス
 浪花ノ人ナリ
 能諧ヲ善ス曾テ宗祇法師
 ノ風流ヲ慕ヒ諸国ヲ往廻
 シテ相摸管根ノ湯本ニ至
 リ宗祇ノ墓前ニ於テ落髮
 シテミツカラ祇空ト号シ
 遂ニ東奥羽越ノ境ニ赴キ
 シハラク江戸ニ遊止ス後
 洛ニ住シ又浪花ニ寓シ亦
 江戸ニ赴クノ途中管根湯
 本ニ歿ス時ニ享保十八年
 四月廿三日歿ス年七十一
 宗祇ノ墓ノ側 葬ル後又
 冥ヲ深川八幡宮ノ赤社ニ
 合祭ス

鑑定便覽 書畫部 出来

嘉永七年寅春刊

川喜多真一郎輯

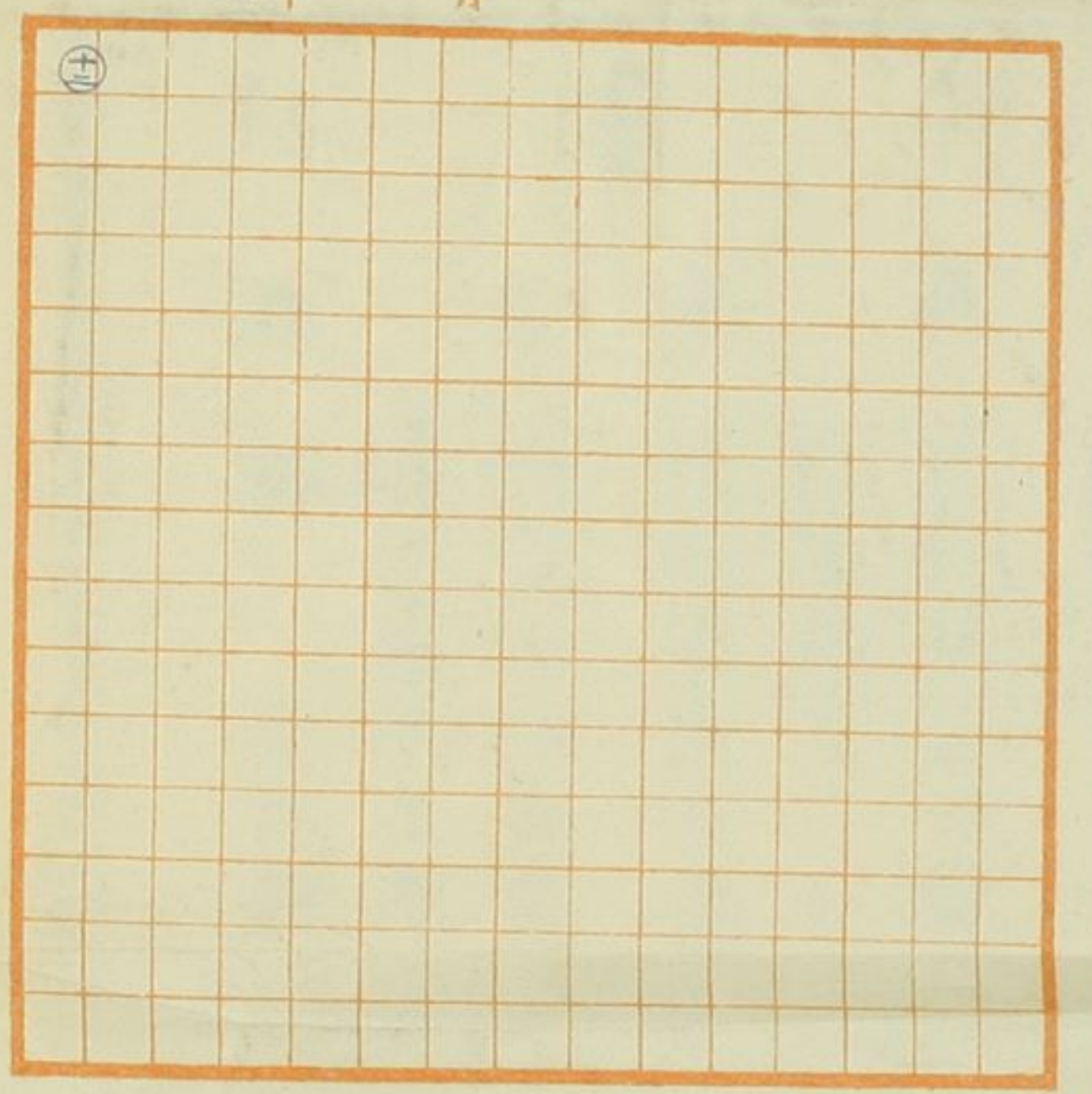
發

東 須原屋茂兵衛

岡田屋嘉七

市 成屋左兵衛

4年 月



和漢年表史畧

全七卷

皇國神代ヨリ慶長ニ至リ漢六ニ皇五帝ヨリ
元明ニ至リ並ニ文宣武臣事跡治亂盛衰事物
原始ニ至ルニ委テ輯録シ讀者倦ルルガ簡明
ニ面自今モ事實ヲ失サルガ約紀ニテ決定ニ
和漢歴史ノ捷徑最第一ノ書ナリ

袖珍哥枕

全四冊

和歌ヲ自在ニ詠セニハ名所ニ委カラス又詠
カタル此哥枕ノシハ海内ノ名所洵ニコトナク記
其名所ゴトニ廿一代集内ノ佳調ヲ採擷シ詠人
ノ記ヲ採桑ノ名處ノ和歌ヲ速覽センニ此
書ニマサレルモノ有ヘカラス

袖中草分衣

折本一帖

掌中書画年契

全一帖

本朝紀年大成

全一冊

コノ書ハ日本往古ヨリ雲上武門ヲ始メ
國學和哥儒醫高僧連俳茶人書画
古筆逸人ニ至マテ先輩ヲ洩サズソノ
畧傳生年行年ヲ具ニ奉ク故ニ其故
年忌ヲ速知センコト此卷ニ優レル

京都三條通塚町

出雲寺松栢堂

鹽定便覽 書畫部 出来

嘉永七年寅春刻

川喜多真一郎輯

發

東 須原屋茂兵衛

岡田屋嘉七

都 山城屋佐兵衛

行

浪 河内屋喜兵衛

敦賀屋彦七

書

華 河内屋茂兵衛

皇 越後屋治兵衛

近江屋佐太郎

林

都 林 芳兵衛

和漢年表史畧

全七卷

皇國神代ヨリ慶長ニ至リ漢六ニ皇五帝ヨリ
元明ニ至リ並ニ文武臣事跡ヲ乱歴事物
原始ニ至ルテ委輯録シ讀者倦ルヤ簡明
ニ面自今モ事實ヲ失サズ約紀ニ定ニ
和漢歴史ノ提徑最第一書ナリ

袖珍哥枕

全四冊

和歌ヲ自在ニ詠セシハ名時ニ委カラス天詠
ガタニ此哥枕ノミハ海内ノ名所漢スコトク記
其各所ゴトニ廿代集内ノ佳調ヲ採擷全歌
ヲ記ス擗桑ノ名處ノ和哥ヲ速覽セシハ此
書ニマサレルモノ有ヘカラス

袖中草分衣

折本一帖

掌中書画年契

全一帖

本朝紀年大成

全一冊

コノ書ハ日本往古ヨリ雲上武門ヲ始メ
國學和哥儒醫高僧連俳茶人書画
古筆逸人ニ至マテ先輩ヲ洩サズ
畧傳生年行年ヲ具ニ萃ク故ニ其故
年忌ヲ速知センコト此卷ニ優レル

京都三條通堀町

出雲寺松栢堂

